

『診療画像技術学 I 診療画像機器』

正誤表(第2報)

標記書籍(2009年11月10日 第一版 第1刷)に誤りがございましたので、以下に訂正しお詫び申し上げます。

(2018年6月26日)

頁・行	誤	正
1頁, 3行目	村岡範馳	村岡範為馳
1頁, 6行目	わずか数か月	11か月
4頁, 1行目	DSA(デジタルラジオグラフィ)	DSA(デジタルサブトラクションアンギオグラフィ)
16頁, 11行目	B領域では管電流が流れなく一定の値(矩形波)となるが	B領域の管電流波形は矩形波となるが
18頁, 3行目	(A) X線管で600mAを使用するためには、管電圧が125kV以上でなくては使用できない。	(A) X線管で管電流600mAを通電するには管電圧125kV, 負荷時間0.02s以下の使用となる。
21頁, 表1	12°管(X線放射角度±11°)	12°管(X線放射角度±6°)
30頁, 下から3行目	管電流時間積(mAs)は±(10%+2mAs)	管電流時間積(mAs)は±(10%+0.2mAs)
34頁, 図37	実効焦点8mm	実効焦点0.8mm
34頁, 7行目	パルス上	パルス状
39頁, 1行目	歯科用X線装置,	歯科用X線装置は,
42頁, 図1	PMMA1	PMMA
61頁, 図22	$\sqrt{3E_m}$	$\sqrt{3}E_m$
76頁, 4行目	インバータ周波数が短く	インバータ周波数が低く
76頁, 11行目	感電流	管電流
80頁, 6行目数式	$E = E_0 \times e^{\frac{-t}{RC}} \quad \therefore t = R \times C \log \frac{E_0}{E} = \frac{E_0}{I_0} \times C \log \frac{E_0}{E}$	$E = E_0 \times e^{\frac{-t}{RC}} \quad \therefore t = R \times C \times \ln \left(\frac{E_0}{E} \right) = \frac{E_0}{I_0} \times C \times \ln \left(\frac{E_0}{E} \right)$
129頁, 10行目	グッキーブレンデ	ブッキーブレンデ
133頁, 10行目	直行	直交
155頁, 6行目	導入より	導入により
277頁, 22行目	指(2mm以上)	指(20mm以上)
277頁, 下から1行目	患者患者方向	患者方向
278頁, 下から8行目	SIDの4%	SIDの2%
279頁, 上から1行目	圧迫厚	圧迫圧
279頁, 下から7行目	患者指示器	患者支持器
280頁, 4行目	stereostatic	stereotactic
283頁, 7行目	新規JIS(2008年版)を参照	新規JIS(2012年版)を参照
286頁, 1行目	余剰X線	剰余X線
286頁, 1行目	受容器	受像器
カバー, 表紙, 扉, 奥付	西尾誠二	西尾誠示